

(別記)

## 2019 年度人吉市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、人吉盆地の西南部に位置し、中央部を日本三大急流の一つである球磨川が東西に貫流している。

当市の農業経営を大別すると、水稻、葉たばこ、畜産、野菜、果樹との複合経営が大部分であり、転作面積に占める飼料作物、WCS用稲の割合が多く、特にWCS稲の作付面積が増加傾向にある。

その一方で、農家の高齢化や後継者不足が進んでおり、農家戸数の減少がみられるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中、作物作付面積の維持が課題となっている。

### 2 作物ごとの取組方針等

市内の約 894ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、特に加工用米、野菜を転作作物の中心に位置付け、作物生産の維持・拡大とともに、水田フル活用に向けた二毛作への取組の更なる推進を図る。

#### (1) 主食用米

主食用米については、作付目安に沿った作付面積を確保するとともに、需要に応じた数量を確保していく。

栽培については、優良品種の導入や適正な肥培管理など、栽培技術の徹底を図るとともに、有機物等の施用による土作りなど、環境保全型の生産を促進する。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米の取り組みを中心として、収益性の向上及び作付面積の維持・拡大を図る。また、産地交付金を活用して需要者から指定された多収品種を用いる取組や団地化を支援し、わら利用の取組（耕畜連携）の推進も図る。

##### イ WCS 用稲

稲発酵粗飼料用稲（通称WCS用稲）については、地域の担い手への集約が進んでおり、畜産農家との協力体制が出来てきている。今後、さらに集積を進め、産地交付金を活用し多収品種（WCS用稲の専用品種）の作付や資源循環（耕畜連携）に取組ながら作付面積の維持・拡大を図る。

## ウ 加工用米

当該地域の加工用米は、地元酒造メーカーへの販売を中心に生産を行っており、近年、加工用米の需要が高まっているところである。

産地交付金を活用して、焼酎原料米として需要者から指定される多収品種「ミズホチカラ」及び「たちはるか」による多収性生産や、地域一体となった取組や団地化、また、多収低コスト栽培の取組や二毛作の取組に支援を行い、生産の拡大を図る。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、大麦の栽培を中心に組織的な麦づくりを推進しつつ、担い手による効果的な生産に向け、水田の排水対策、冬季管理、適期刈り取りによる品質の向上及び収量の増加を図る。

大豆については、技術の改善、優良品種の導入による品質収量の向上及び省力化を進め、生産性の向上を図る。

また、麦、大豆ともに産地交付金を活用し二毛作の取組を支援し作付の拡大を図る。

飼料作物については、耕種農家と畜産農家との水田放牧および資源循環へ取組等の連携による水田から良質の粗飼料生産（イタリアンライグラスやトウモロコシ等）について、推進を行う。

### (4) 高収益作物（園芸作物等）

産地交付金を活用して、転作における園芸作物（野菜、花卉、果樹等）や葉タバコ等への転換を支援を行いながら、今後も作付面積の維持・拡大を図る。

また、JA、市で推進する9品目（赤トウガラシ、ニンニク、ブロッコリー、青さやインゲン、甘長トウガラシ、オクラ、ズッキーニ、加工用タマネギ、抑制かぼちゃ）及び、その他作物（薬用作物）については、特に地域で振興を図る必要があるため重点品目に位置付け生産拡大を図る。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年産の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	453 2,292t	453 2,292t	453 2,292t
飼料用米	5.8	5.9	6.0
米粉用米	0	0	0
新市場開拓米	0	0	0
WCS用稲	142.4	142.5	142.6
加工用米（二毛作含む）	9.5	9.6	9.7
備蓄米	0	0	0
麦	7.8	8.0	8.2
基幹作	0.0	0.1	0.2
二毛作	7.8	7.9	8.0
大豆	0.5	0.6	0.7
飼料作物	181.1	181.2	181.3
基幹作	65.4	65.4	65.4
二毛作	115.7	115.8	115.9
そば	0.0	0.0	0.0
なたね	0.7	0.0	0.0
その他地域振興作物			
・重点品目（野菜）	3.0	3.2	3.4
・重点品目（薬用作物）	3.1	3.2	3.3
・野菜	39.3	39.4	39.5
・花き・花木	6.5	6.6	6.7
・果樹（栗）	0.9	1.0	1.1
・その他	19.4	18.4	18.4

※主食用米の目標値（H31～33）において使用した単収は506 kg/10a

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				2018年度	2020年度
1	焼酎原料用加工用米	加工用米の低コスト生産支援 （基幹・二毛作）	多収性品種 導入面積	9.0ha	(8.8ha) 9.2ha
			加工用米生産費	4,400円/60kg	4,000円/60kg
2	飼料用米	飼料用米多収品種加算(基幹)	多収性品種 導入面積	2.0ha	(1.6ha) 2.2ha
			収量	545kg/10a	(520kg/10a) 560kg/10a
3	特定野菜(赤トウガラシ、ニンニク、青さやインゲン、ブロッコリー、甘長トウガラシ、抑制かぼちゃ、オクラ、ズッキーニ、加工用タマネギ)、その他作物(薬用作物) ※加工用タマネギは二毛作も対象とする。	重点品目への助成 （基幹）(二毛作)	生産拡大面積	3.8ha	4.7ha
4	麦・大豆・加工用米・飼料作物・そば・なたね(二毛作)	二毛作助成(二毛作)	生産拡大面積	120.6ha	(116.0ha) 120.8ha
			水田利用率	122%	(107%) 124%
5	【わら利用の取組】飼料用米、わら専用稲 【水田放牧の取組・資源循環の取組】飼料作物、WCS用稲	耕畜連携助成 （基幹・二毛作）	生産拡大面積	114.3ha	(98.7ha) 114.5ha
			実施率	35%	(33%) 37%
6	特定野菜を除く野菜、花き、花木、果樹、その他作物	地域振興作物への助成 （基幹）	生産拡大面積	35.3ha	41.5ha
7	飼料用米・加工用米	団地化加算 （基幹・二毛作）	生産拡大面積	2.6ha	4.1ha
			飼料用米 単収	545kg/10a	(520kg/10a) 560kg/10a
			加工用米 単収	652/10a	(572kg/10a) 670kg/10a
8	麦	担い手加算 （基幹・二毛作）	生産拡大面積	5.4ha	(3.8ha) 5.6ha
			収量	105kg/10a	114kg/10a

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。